

# 年 頭 所 感



北海道知事 高 橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。

北海道医師会の皆様には、平素から道政各般にわたり、深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、8月以降相次いだ記録的豪雨により、道内各地で未曾有の被害が発生しました。お亡くなりになられた方々とそのご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。依然として、道民生活や地域産業に大きな影響が残っており、道としては、被災地域の速やかな復旧・復興に向け、引き続き国や市町村などと総力を挙げて取り組んでまいります。

一方で、3月の北海道新幹線開業により北海道の歴史に新たな1ページが刻まれ、また、食や観光の海外への売り込みや、安心して子育てできる環境づくり、医療・福祉サービスの確保など、地域創生に向けたさまざまな取り組みを進め、次への飛躍に向けた確かな基礎を築くことのできた1年となりました。

今年は、これまで進めてきた地域創生を一層推進することはもとより、道民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、関連分野の施策や事業と連携を図りながら各般の取り組みを進めてまいります。

医療・福祉の分野においては、道政上の最重要課題である医師確保対策について、これまで、北海道医師会や北海道病院協会、医育大学のご協力のもと、「緊急臨時的医師派遣事業」などの即効性のある対策を行ってきているほか、平成20年度に創設した、地域枠制度により、札幌医科大学を卒業した医師7名が地域勤務を開始しました。

今後、同じく地域枠制度を活用した旭川医科大学を卒業する医師を含め、その数は年々増加し、平成38年度には160名程度の医師が地域医療に従事する見込みとなっており、引き続き、医師の地域偏在の解消に向けた取り組みを進めてまいります。

また、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上となる2025年を見据え、医療のあり方は「病院完結型」から「地域完結型」へと重点を移していく必要があります。今後の高齢化の進行に伴う医療ニーズの変化等を踏

まえた医療提供体制の構築を目指し、北海道医師会のご協力をいただきながら、昨年12月に「北海道地域医療構想」を策定いたしました。

今後は、その実現に向け、21の構想区域ごとに設置した「地域医療構想調整会議」における地域での議論等を踏まえながら、バランスの取れた医療提供体制の構築に取り組んでまいります。

さらに、本道は広大な面積を有し、医療資源の地域偏在が著しいことから、ドクターヘリによる救急搬送に加え、メディカルウイングの実用化に向けた取り組みなど、今後とも、関係機関・団体の皆様のお力添えをいただきながら、一人でも多くの尊い命を救えるよう救急医療体制の確保・充実に努めてまいります。

道といたしましては、こうしたさまざまな取り組みなどを通じて、地域医療の第一線で活躍されている北海道医師会の皆様方との連携をさらに深めながら、保健・医療・福祉の推進に努めてまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとりまして、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。